



1 2月の園だより

学校法人志賀学園

松の実こども園

令和7年12月1日

「松の実ガーデン」の木々はすっかり葉を落としましたが、柏の葉は新しい葉が出るまで古い葉が落ちないというように、茶色い葉っぱがしっかり残っています。

だいぶ日が短くなって参りました。師走の頃から車の交通量が増えてきます。先日読売新聞の編集手帳という欄に「きょうね けいさつがきたよ／みぎみてひだりみて／みぎみてひだりみて／わたるんだって／いのちはね／いっこしかないらしいよ／だからみぎみてひだりみて／みぎみてひだりみるんだよ（交通安全教室）」という幼稚園児の詩を引用しながら、こんなにも理解してもらえたら「けいさつ」の人もうれしいだろう。という記事が掲載されていました。冬場の事故増加は交通量ばかりが要因ではなく、日没が早まって暗い時間帯が長くなることの影響も大きいということでした。日が沈む直前、見通しが悪くなる薄暮の時間帯に事故が多発する傾向があり、歩行者は小さな子供やお年寄りほど視野に入りづらくなります。普段から交通安全を心掛けているドライバーでも、事故の加害者になるリスクが高まる時節になりました。注意力を精いっぱい働かせ、「いのちはいっこしかない」ことを覚えてばかりの子どもたちを守っていききたいものですね。街々にクリスマスソングが流れ始めました。みんなが元気にサンタさんに会えますように…と締めくくられていました。突然、横断歩道を急速で横切る自転車もありますので、どうか皆様お気をつけください。

さて、12月13日は生活発表会です。常日頃から音楽に合わせて歌ったり踊ったりしていた曲や、絵本やペープサート、劇あそびをする中から、子どもたちが踊りたい曲や劇を選んだものを発表します。ダンスや劇に取り組みながら、振り付けや衣裳、大道具や小道具などを「こうしたらいいんじゃない!」「〇〇作りた〜い」と子どもたち自身で考えたり作ったり意欲的に進めています。全国的なインフルエンザの流行に伴い、園内でも全員揃っての活動は難しい状況ではありました。当日は、これまでのこども園生活で歌ったり踊ったり演じたりしてきた表現遊びの様子を、ご家族お揃いで楽しみにご覧いただけたらと思います。

12月22日は冬至です。1年でいちばん昼が短く夜が長い日で、次の日からは少しずつ昼の時間が長くなっていきます。冬至にむかって日は短くなっていきますが、昔の人は「太陽の力が弱くなると、人間の魂もおとろえる」と考えていました。そこで、この季節に旬のかぼちゃやあずきなどを食べたり、ゆず湯に入って力を回復し、冬至を乗り越えようとした習慣が今も残っています。そして1年の最後の日、12月31日が「大晦日」です。昔は、それぞれの月の終わりの日を「晦日」といい、1年の最後の月の「大晦日」の夜には、「長い食べ物であるそばは長寿につながる」ということで年越しそばを食べ、お寺へ行って「除夜（大晦日の夜）の鐘」をついて新しい年を迎えたそうです。良いお年をお迎えください。